イランの声

第29号 | 2026年10月

www.alhodapub.com

ホルムズ海峡
国際法の視点から

ガズヴィーン：
サファヴィー朝の都から

アラムートの
伝説へ

国境を越える
物語

ペルシャ湾

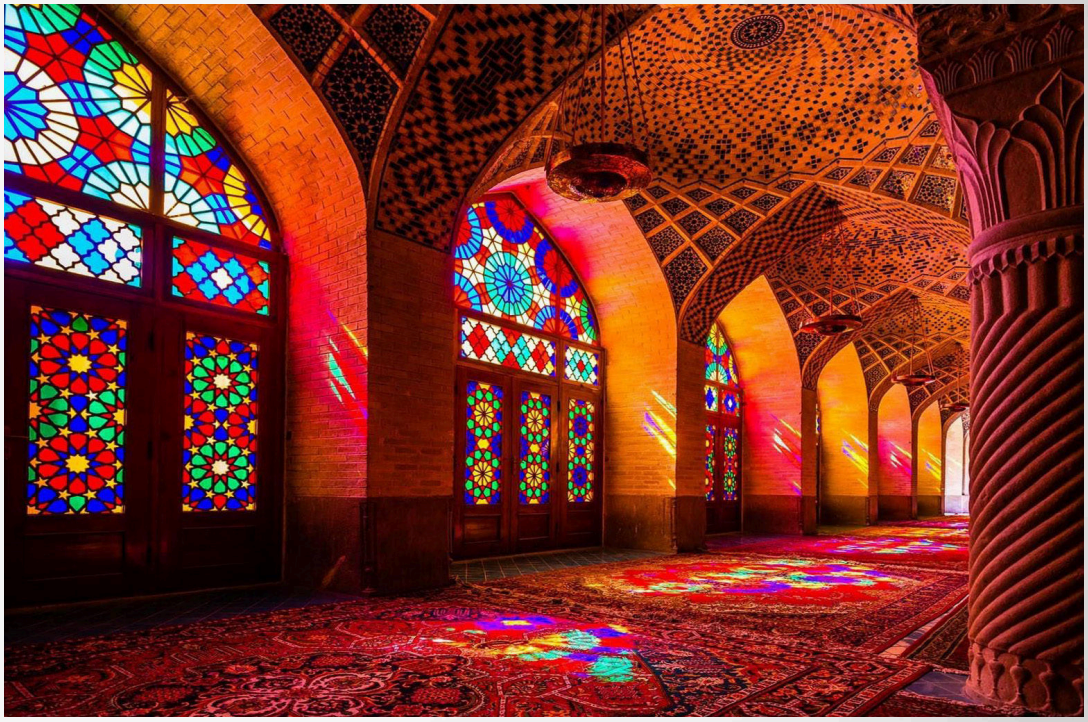
ホルムズ
海峡



数十万人の「ジャーンファダー」
テヘランで行進









目次

6
国境を越える物語
ザフラー・ハーンジャーニー





8
イラン：悠久の文明と生き続けるアイデンティティー

10
ガズヴィーン：サファヴィー朝の都からアラムートの伝説へ





16
私はアラムート：世界遺産となった城塞
モフセン・タヴァッソリー

18
イラン国旗：愛国心とイスラムの価値を表す象徴
ダックス・トスカーノ・セゴビア



イランの声

第29号 | 2026年10月



目次

20

ペルシャ庭園：王朝の楽しみから人々の憩いへ

フリアナ・ヒメネス・エスピノサ





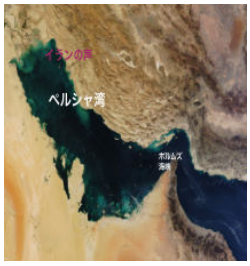
22

数十万人の「ジャーンファダー」がテヘランで行進

24

ホルムズ海峡を国際法の視点から考える

マフディー・ナザリー博士





32

イスラム・イランと抵抗の源流

35

戦争の犠牲者：子どもから各界の人々まで



発行責任者：
マフディー・ファイヤーズィー

編集長：
ザフラー・ハーンジャーニー

スペイン語版翻訳：
Z・ハーンジャーニー
ニールーファル・サイヤーディー・キヤー
バルボド・モエッズィー

制作統括・広報：
マルヤム・ハムゼルー

デザイン：オミード・ベフザーディー

広告窓口：

ヴァリーアスル通り、ファーテミー通り1938番地

イラン、テヘラン

電話：+98 21 88934302

+9821-88934303

ファクス：+98 21 88902725

ウェブサイト：

www.alhodapub.com

メール：

alhodapub@gmail.com



巻頭言

国境を越える物語

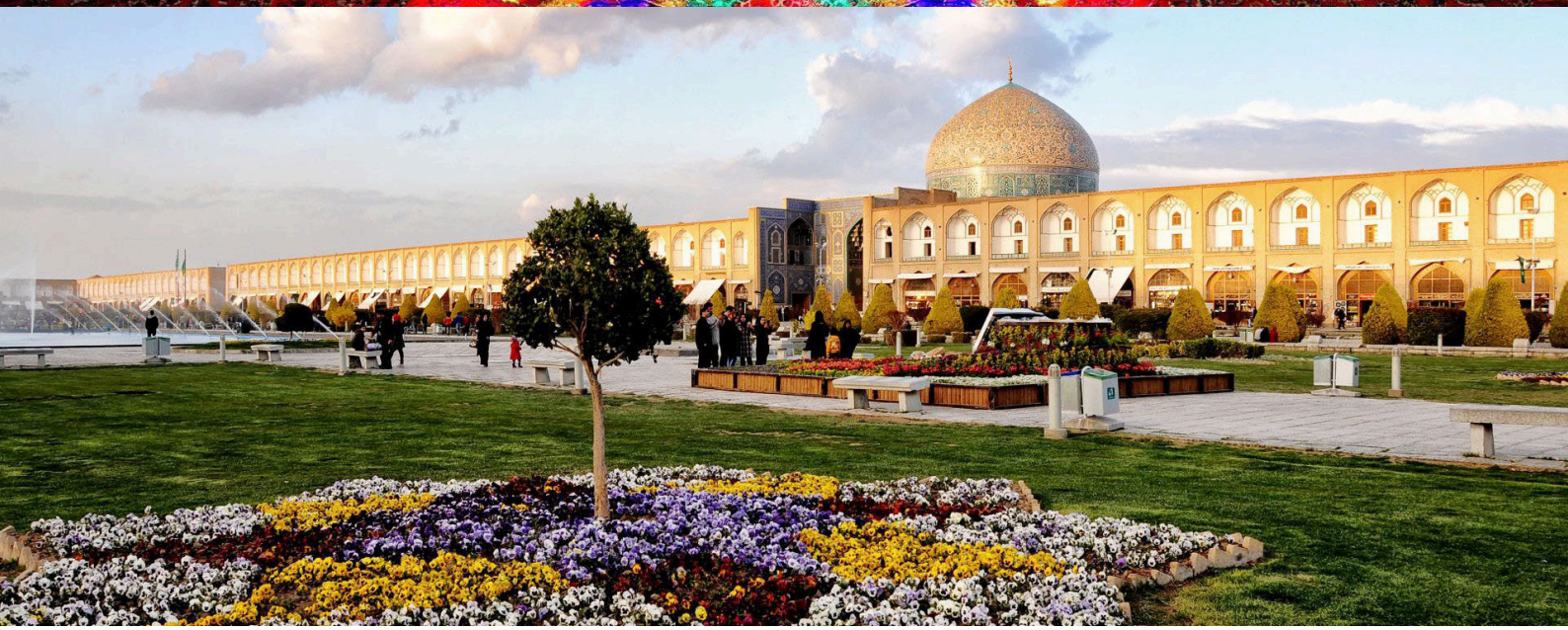
文：ザフラー・ハーンジャーニー
本誌編集長

イランの風景から諸外国との文化的なつながりまで。本号の物語は、記憶、伝統、象徴が国境を越えて地域や社会を結び付ける姿を描きます。

イランでは、風景、都市、伝統、象徴の中に歴史が息づいています。各地に残る城塞、庭園や儀礼の場を訪ねると、何千年にもわたり記憶を積み重ねてきた文明に触れることができます。

北部の山々には、国内でも名高い史跡、アラムート城があります。その遺構はペルシャの中世をしのばせ、建築と自然が切り離せない風景の一部となっています。



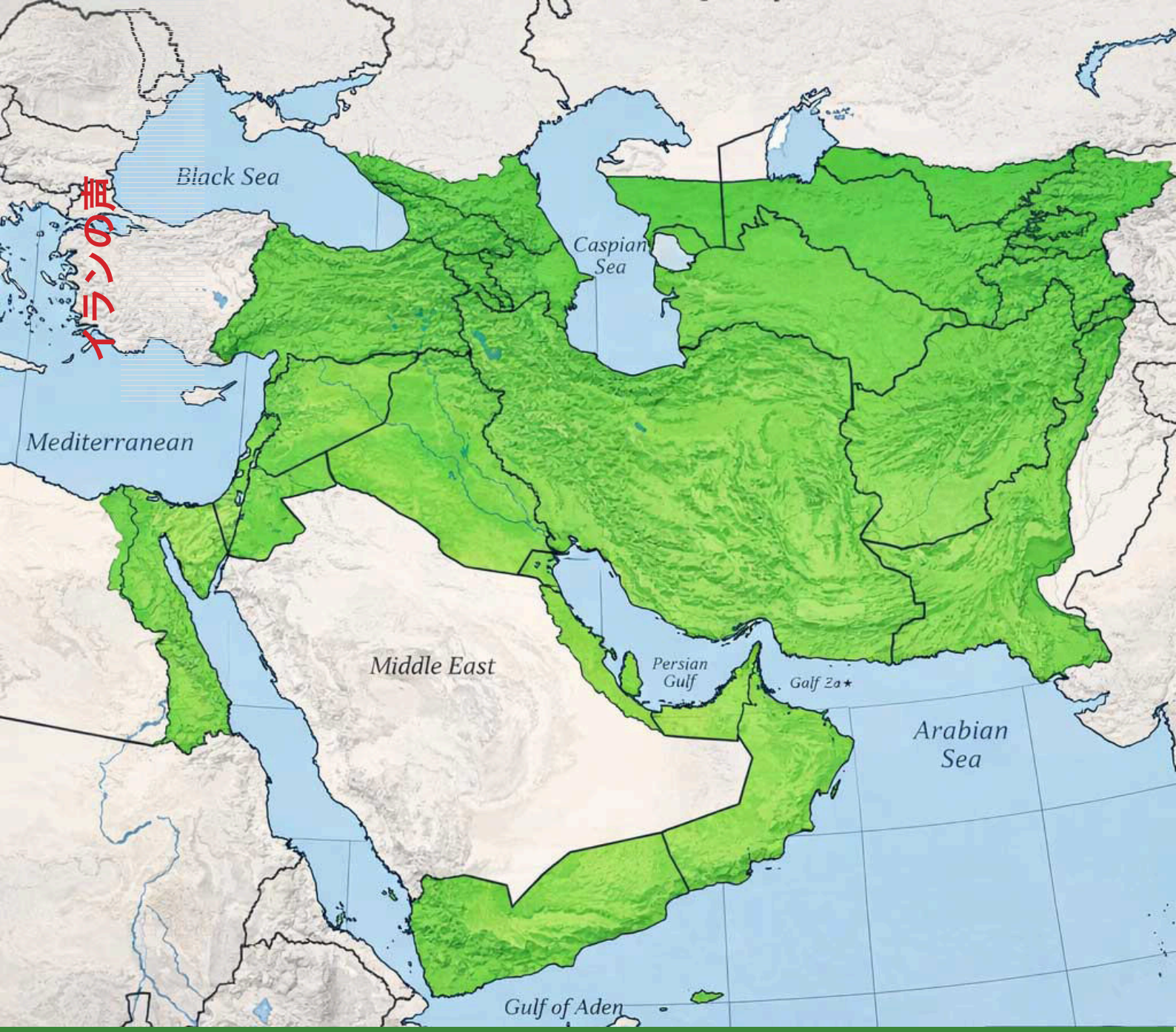


風景との結び付きは、ペルシャ庭園にとりわけよく表れています。水、草木、木陰、建築が調和し、思索へと誘う空間を生み出します。テヘランでは、庭園や緑地は大都市の中の小さな憩いの場でもあります。

現代のアイデンティティーも象徴を通して表現されます。公式行事や祝祭に掲げられるイラン国旗は、国家の姿を伝えるものです。主催者がイランへの献身と責任の表現と位置付ける「ジャーンファダー」運動のテヘラン集会も、同国の公共生活の別の一面を映しています。

国境の先へ目を向けると、ペルシャ湾とオマーン湾の間にあるホルムズ海峡は、イランの地理を、国際的な経済や戦略の重要な動きと結び付けています。

アラムートからテヘランの庭園へ、そしてホルムズ海峡へ。本号では、記憶、文化、風景が、地域や社会を結び付けるさまざまな姿を紹介します。



イラン：悠久の文明と生き続けるアイデンティティー

マフディー・ファイヤーズィー／本誌発行責任者

イランは、人類の偉大な文明の発祥地の一つです。約7000年にさかのぼる歴史の中で、優れた文化や王朝、学問の中心地、豊かな芸術表現が生まれてきました。この歴史の連続性が、多様性、知的な豊かさ、深い帰属意識を備えた文化的アイデンティティーを育んできたのです。

イラン社会を伝統的に特徴付ける資質の一つが、もてなしの心です。訪れる人を寛大に、敬意と親しみをもって迎えることは、社会や家庭の慣習で大切にされています。他者への配慮と温かな応対は、人間関係や共に生きることを重んじる文化の一部です。

家族も、イランの人々の社会生活を支える柱です。世代を結ぶ絆、年長者への敬意、精神面と人間性の両方を育てる教育、

今日もイランの文化的アイデンティティーを形作っています。
イラン史の特徴には、独自の政治的、文化的アイデンティティーの継続もあります。アジア、アフリカ、アメリカ大陸の多くの地域と異なり、イランは正式には欧州の植民地となりませんでした。ただし、侵攻、占領、外国の干渉、強い国際的圧力を経験しています。それでも歴史、文化、政治的独立を支える基本的な要素を保ってきました。



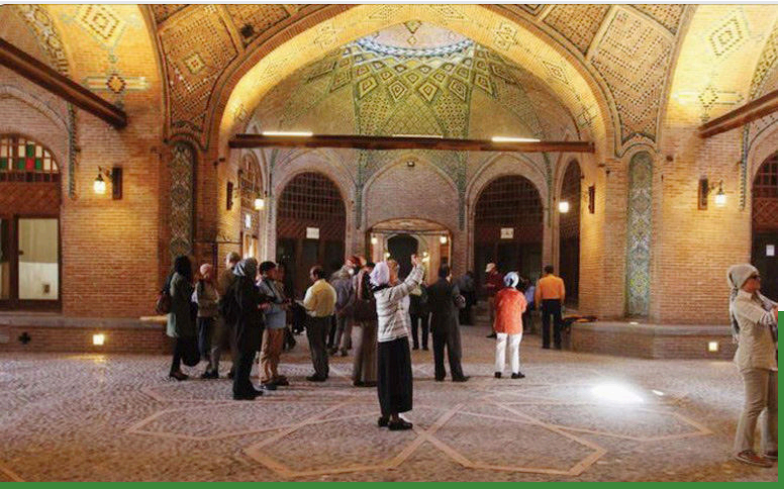
そして大切な人々の幸福への気遣いは、今も大きな意味を持っています。家族を大切にする姿勢に加え、困窮する人々との連帯や、弱い立場にある人を支える伝統もあります。

イランの豊かさは、卓越した知と芸術の伝統にも表れています。ペルシャ世界の哲学者、医師、数学者、天文学者、詩人、科学者は、何世紀にもわたり学問に貢献してきました。イブン・スィーナーやオマル・ハイヤームは、世界に広がる知的遺産の担い手です。とりわけ詩は重要な位置を占め、建築、書道、細密画、音楽などの伝統芸術と共に、

将来に向け、イランの公式な言説では「新たなイスラム文明」の構築が掲げられています。人間的、精神的な価値、知識、科学、文化、社会発展を統合する構想です。支持者は、信仰や宗教にかかわらず、すべての人が理性、倫理、精神性、神への思いに基づいて関わり合い、調和のある人生を送ることを目指すと説明します。

現代イランは、悠久の遺産と現代世界の課題との絶え間ない対話の結果として理解できます。自らのアイデンティティーと原則を読み直しながら、未来における立場と展望を模索し続ける社会なのです。







ガズヴィーン：サファヴィー朝の都からアラムートの伝説へ

テヘランからイラン北西部へ向かう途中、ガズヴィーンは一見、通過するだけの町に見えるかもしれません。しかし歴史地区に足を踏み入れると、幾世紀もの歴史が今も日常の風景を形作る都市に出会えます。

サファヴィー朝の宮殿、歴史あるモスク、伝統家屋、小さなロシア正教会、古い貯水槽、国内屈指の隊商宿が、歩いてすぐの範囲に並びます。ガズヴィーンの魅力は、有名な都市と競うことではなく、あまり知られていないペルシャの遺産をゆっくり発見できることにあります。

アルボルズ山脈の南に位置し、テヘランとアゼルバイジャン、カスピ海南部を結ぶ古い道に面しています。この戦略的立地により、何世紀にもわたって商業、政治、文化の重要な中心地となりました。

その歴史はイスラム以前にさかのぼります。平原の遺跡は、数千年前から農耕集落が存在したことを示しています。サーサーン朝時代にも戦略的役割を持ち、北方の諸民族に対する防衛の一翼を担いました。

町の運命を決定的に変えたのは16世紀です。タフマースプ1世がサファヴィー朝の都をタブリーズから移しました。その後約半世紀、イラン史上の大帝国の政治的中心となり、1598年にアッバース1世がイスファハーンへ遷都するまで続きました。

この短い首都の時代は、深い痕跡を残しました。現在の歴史地区を特徴付ける遺産の多くは、その頃に生まれ、発展したものです。

サファヴィー朝の都の中心で

ガズヴィーンを知るには、かつての都の足跡をたどるのがよい出発点です。

コラーフ・ファランギーとも呼ばれるチェヘル・ソトゥーン宮殿は、旧王宮複合施設に残る数少ない建物です。もとは庭園に囲まれた、より大きな宮殿群の一部で、宮廷の置かれたガズヴィーンの重要性をしのばせます。
現在は書道博物館となっています。ペルシャ書道の長い伝統を持ち、国内の代表的な書道の町として知られるこの都市にふさわしい用途です。内部の壁画や装飾からは、時代ごとの芸術様式の移り変わりも読み取れます。

宮殿からは、歴史あるセパーフ通りを歩けます。イラン最初の計画街路と伝えられるこの通りは、旧サファヴィー朝王宮の入口の一つ、アーリー・ガープー門へ続いています。

この門は、もとの七つの入口のうち、現在まで残った唯一のものとして重要です。

家々、日常、そしてロシアの教会

ガズヴィーンの歴史はサファヴィー朝だけではありません。別の一面を知るには、宮殿を少し離れ、日々の暮らしに関わる建物に目を向けてみましょう。

ガージャール朝時代のアミーニーハー邸とホセイニーエは、伝統的な住宅建築の好例です。中庭、広間、色ガラス、精緻な装飾は、家族、宗教儀礼、社会的なつながりという別の歴史へと私たちを導きます。

ひときわ目を引くのが、鐘楼の名でも知られるカントル教会です。20世紀初頭、鉄道やインフラ事業に携わったロシア人技師のために建てられた、小さなロシア正教会です。

赤いれんが、多角形の平面、鐘楼は、この町の近代史にも外国の共同体や事業が



関わっていたことを物語ります。
外国からの旅行者にとって、この小さな建物は示唆に富んでいます。ガズヴィーンはイラン各地の交差点であると同時に、近代に国へ流れ込んだ国際的な変化とも結び付いていたのです。

ガズヴィーン：歴史に残る給水網の傑作

一見しただけでは分からない歴史もあります。それを知るには、私たちの足元を見なければなりません。
比較的乾燥した地域にあるこの町では、水の確保が何世紀も重要課題でした。住民は高地から水を運ぶ地下水路カナートを広く張り巡らせ、多くの貯水槽を築きました。

代表例が、巨大なドームに覆われた貯水槽、アーブ・アンバール・サルダーレ・ボゾルグです。

外国から訪れる人には、アーブ・アンバールという伝統的貯水槽は、壮大な建築物の一つに見えるかもしれません。しかし、その機能は極めて実用的でした。水を蓄えて保ち、住民への給水を確かなものにしたのです。
ここでは建築が、美しさを超える物語を語ります。給水施設は、伝統社会が都市を気候に適応させ、不可欠な資源を集め、保ち、配る高度な仕組みを生み出したことを示します。ドーム、中庭、正面装飾の背後には、環境と都市生活について何世紀も蓄積した知識があります。これもガズヴィーンを理解する鍵です。

古い交易の場から現代の都市へ

サアド・アッサルタネの隊商宿も、この町の歴史を読むもう一つの入口です。
ガージャール朝時代に建てられた大規模施設は、旅人や商人の宿泊と交易の場でした。中庭、店舗、ヴォールト、連続する通路は、交易路が都市経済で果たした役割を映しています。

興味深いのは、この隊商宿が過去だけの存在ではないことです。
大がかりな修復の後、かつての商業空間は再び都市の日常に溶け込みました。歴史ある壁の間には今、

工芸品店、ギャラリー、カフェ、レストランがあります。かつて商人や旅人を迎えた場所は、今も出会いの場という役割を果たしているのです。

2023年には、イランの他の歴史的隊商宿と共に「ペルシャのキャラバンサライ」の構成資産として、ユネスコ世界遺産に登録されました。

ガズヴィーンからアラムートの山々へ
町の物語は、市街の通りだけでは終わりません。
北へ進むと街並みが遠ざかり、アルボルズの山々が次第に地平線を占めます。歴史と自然が見事に交わるアラムートへ続く道です。

壮観な岩山の上には、ニザール派イスマーイール派と歴史的人物ハサン・サッバーフにゆかりのあるアラムート城の遺構が残ります。

11世紀末から、アラムートはニザール派の政治、軍事、文化の主要拠点でした。山中の立地が戦略的価値を与え、極めて攻略しにくい城塞としたのです。

2026年、アラムート城と同じ谷の関連する六つの城塞は、ユネスコの世界遺産に



登録され、この歴史的景観の国際的評価をさらに高めました。
近くには山々と緑に囲まれたオヴァーン湖もあります。中世の城塞、山村、自然風景がそろうこの地域は、ガズヴィーンの旅を延ばすのにふさわしい場所です。

食卓から知るガズヴィーン

イランの町を本当に知るには、名所を巡るだけでは足りません。食卓にも着いてみましょう。

ガズヴィーンの料理には、この地域らしさが

よく表れています。米、肉、木の実、香辛料、香草、ドライフルーツを組み合わせ、日々の食事にも祝いの席にも供されます。

ぜひ味わいたい一品が、ゲイメ・ネサールです。

名前は似ていますが、肉と豆を煮込む一般的なゲイメとは別の料理です。ガズヴィーンのゲイメ・ネサールは、羊肉や牛肉を使い、サフラン、シナモンなどで香りを付けた晴れの日の米料理です。

味と同じくらい盛り付けも大切です。ご飯にはピスタチオ、アーモンド、バーベリーの実のゼレシュク、砂糖漬けのオレンジの皮、





豆、香草などを煮込んだ、イラン伝統のとろみのあるスープです。作り方や季節によって、ヨーグルト、穀物、豊富な香草が加わります。

お菓子、お茶、そしてお土産

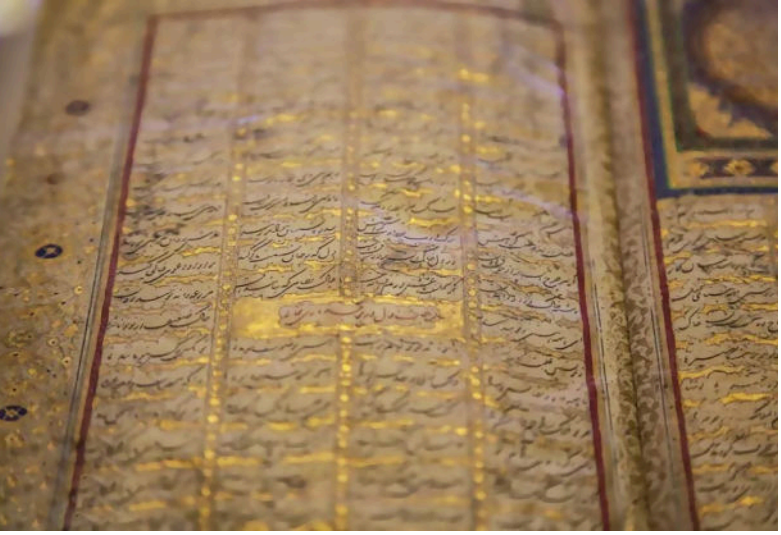
食の楽しみはお菓子へ続きます。ガズヴィーンには、独特のバクラヴァ、ナーネ・チャーイー、ナーネ・ナーゾク、米粉菓子、ナーネ・チャルヒー、アーモンド菓子などの長い伝統があります。お茶と一緒に味わえば、日常のもてなしに触れられます。帰る時のお土産は食べ物だけではありません。絨毯、キリム、織物、ジャージーム、ギーヴェと呼ばれる履物、そしてペルシャ書道の作品も、この町の手工芸を代表しています。

ゆっくりと発見したい町

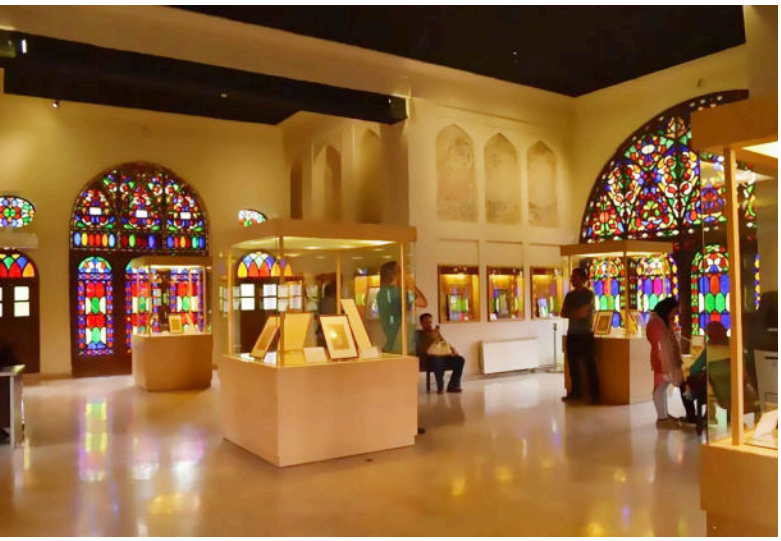
ガズヴィーンには、古い集落、サーサーン朝の建築、サファヴィー朝、ガージャール朝の社会、20世紀の近代化、今に生きる遺産というイラン史のさまざまな章が、比較的小さな範囲に集まっています。

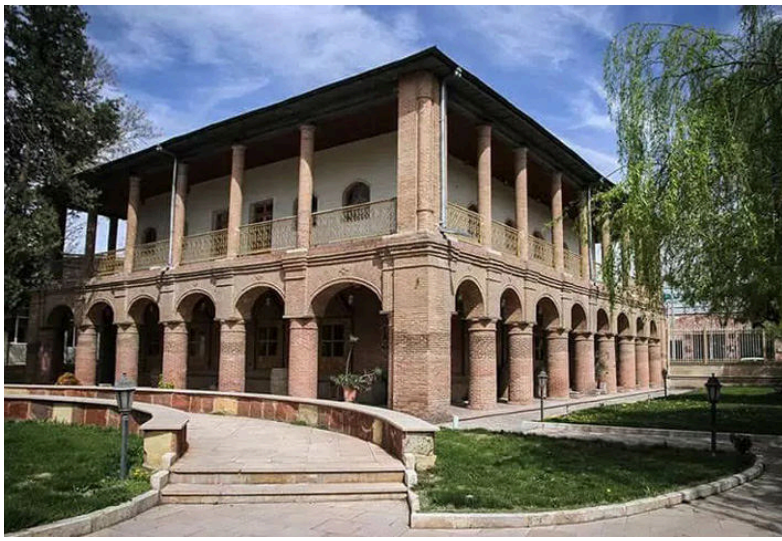
香辛料が添えられます。甘味、酸味、塩味、スパイスの風味が、色や香りと共に重なります。伝統的には祝い事や特別な機会に作られます。旅行者にとって、ゲイメ・ネサールを味わうことは、ガズヴィーンの文化に近付くおいしい方法です。郷土料理を食べるだけでなく、料理がもてなしや家族の祝いの一部であることに気付けます。

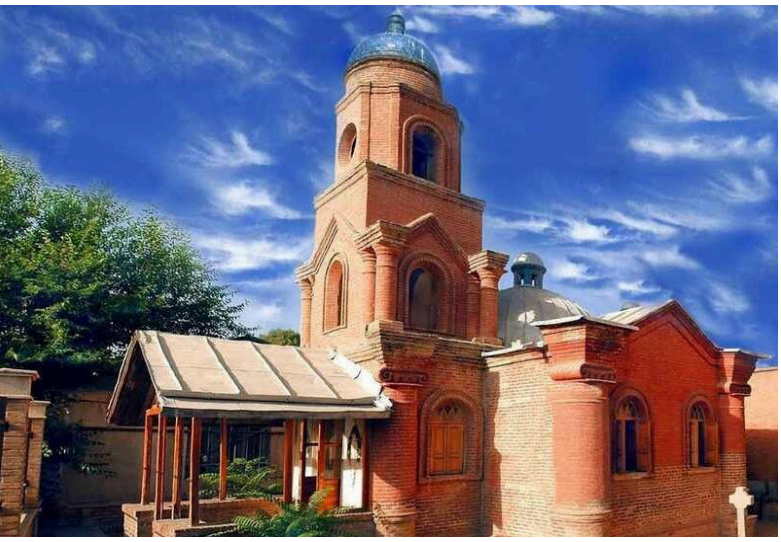
郷土料理には、多様なアーシュもあります。とりわけ興味深いのは、









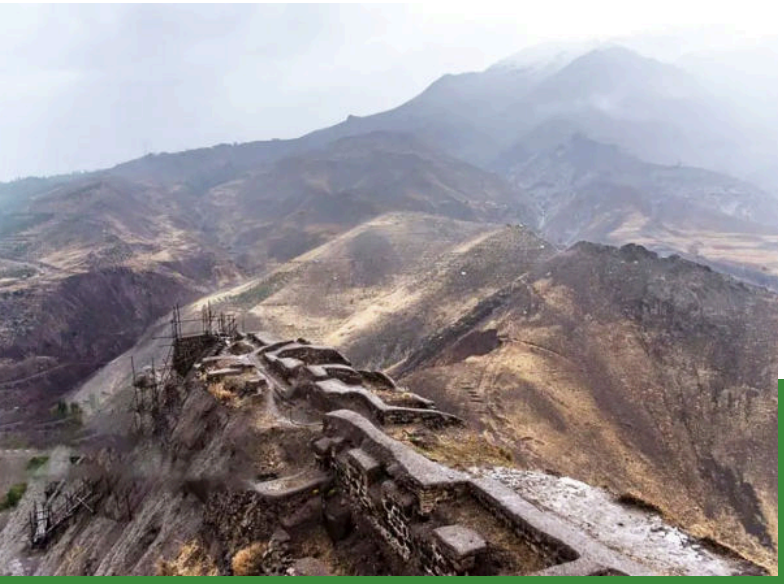




それらの時代が共に息づいていることかもしれません。一度の旅で、かつての帝都を歩き、何世紀も商人が行き交った隊商宿を訪ね、乾燥地の町に水を届けた巧妙な仕組みを知ることができます。祝いの米料理を味わい、翌日にはアラムートの山々へ分け入ることもできます。

ガズヴィーンは、テヘランと北西イランの間の単なる通過点ではありません。通りを歩き、町の鼓動を聴き、味を楽しみ、アルボルズへ続く道をたどることで見えてくる、ペルシャの歴史と文化への入口なのです。







私はアラムート：世界遺産となった城塞

文：モフセン・タヴァッソリー／文化遺産研究者

私はアラムート。アルボルズの岩峰と谷の間、ガズヴィーンの高い山にそびえる城塞です。何世紀もここに立ち、栄華の日々も、戦争も経験しました。年月と共に城壁の一部を失っても、私の物語が忘れられることはありませんでした。

1090年、ハサン・サッバーフがやって来て、私をニザール派イスマーイール派国家の中心としました。その日から私の名は、歴史、政治、思想、学問と結ばれました。軍事要塞であるだけでなく、この山々の中で、イスマーイール派の政治と知の生活を支える重要な拠点でもあったのです。

歳月は流れ、戦争が訪れては去り、1256年、私の内にあったイスマーイール派の権力の時代は幕を閉じました。山と風と雨に寄り添う私の壁は、

ゆっくりと崩れていきました。それでも、静かな廃墟の中で物語は生き続けたのです。

ずっと後に、まだ語るべき物語がたくさんあると信じる人々が訪れました。

イラン文化遺産・観光・手工芸省は、長年、私の調査と保護、世界遺産登録に取り組みました。考古学的調査や発掘が進み、登録推薦書が少しずつ形になっていきました。



その努力の中で、ハミーデ・チューバク博士の名を私は忘れられません。博士は研究、発掘、保存、ユネスコへの推薦準備に25年以上を捧げました。推薦書の作成は2001年に始まり、その背後には長年の粘り強い仕事がありました。

数え切れない日々を共にした博士は、私との関係をこう語りました。「アラムート城を、わが子のように地中から取り上げて育てました。その城が今、世界遺産に登録されたのです」。
そして待ち望んだ日が来ました。2026年夏、韓国の釜山。第48回ユネスコ世界遺産委員会で「アラムート城と関連する城塞群」の推薦が審議され、一群は世界遺産に登録されました。

それは私にとって、長い待ち時間の終わりでした。チューバク博士や文化遺産省のチームなど、この瞬間を実現するため長年力を尽くした人々の、待ち時間の終わりでもありました。
今、私はガズヴィーンの山に隠れた一つの城塞だけではありません。六つの関連城塞と共に世界遺産を構成し、その名は世界の大切な遺産の一つとなりました。

幾世紀を経て、ガズヴィーンの山々に生まれた私の物語が、韓国・釜山から世界へと響き渡ったことを、美しく思います。
私はアラムート。歴史の奥底から現れ、人々の努力により再発見された城塞です。今、関連する六つの城塞と共に、イランで30番目のユネスコ世界遺産となり、人類共通の遺産の一部となりました。

私の最大の宝は何かと尋ねられたら、こう答えるかもしれません。
石や古さだけではありません。私が立ち続ける価値を信じ、その物語を伝えるべきだと考えた人々こそが、私の宝なのです。





イラン国旗：愛国心とイスラムの価値を表す象徴

文：ダックス・トスカーノ・セゴビア／社会コミュニケーター、エクアドル

46年以上前、建築家ハミード・ナディーミーは新しいイラン国旗をデザインしました。イマーム・ルーホッラー・ホメイニーが率いた1979年革命の勝利後、イスラム共和国の国の象徴となった旗です。今日、人々は悪の傲慢な勢力による侵略から国を守るため、この旗を掲げています。

革命前の国旗の中央には、剣を握る金色の獅子と、その背後に輝く太陽が描かれていました。国を表すはずの紋章は、パフラヴィー王朝の象徴となりました。同王朝は米国の支援を受け、恐怖による統治で国民を貧困と抑圧の下に置く一方、天然資源を外国の大国に委ねたのです。

モハンマド・レザー・パフラヴィーの腐敗した犯罪的な王政を終わらせた革命は、

イスラムの原則に基づく新たな国家と社会の建設を始めました。西洋の価値に従属した旧体制の悪弊、不平等、腐敗を取り除くことが、その課題でした。

新しい政治、社会、宗教の体制が、王政の支配を正当化していた象徴を引き継ぐことはできませんでした。

ナディーミーの国旗は、緑、白、赤の旗にイスラムの価値を輝かせました。それは、1979年4月1日、王政の廃止とイスラム共和国の樹立を承認した国民投票によって、国民のアイデンティティーの一部と認められた価値でした。

旗の色は保ち、中央の紋章を改めることで、新たな現実にふさわしい形が生まれました。複数の三日月と剣が「アッラー」という語を形作り、赤いチューリップにも見えます。ペルシャゆかりの花であると同時に、カルバラーで殉教したイマーム・フサイン・イブン・アリー、そして侵略者との闘いで命を落とした革命の殉教者を表しています。チューリップはイスラムの五行も象徴します。

「アッラー」の紋章は、神の唯一性を信じるイスラムの根本的な言葉も表します。



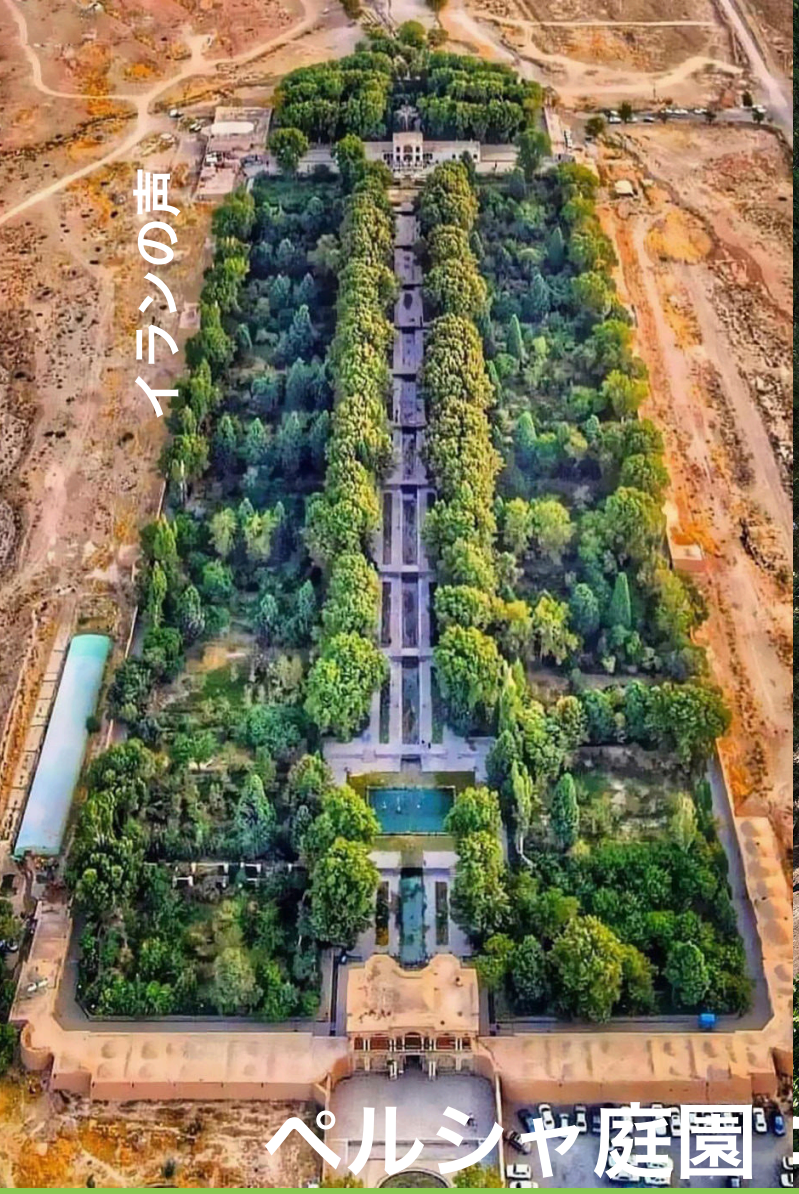
その意味は「アッラーのほかに神はない」です。

緑の帯の下端と赤の帯の上端には、それぞれ11回、クーフィー体で「アッラーフ・アクバル」、すなわち「神は最も偉大なり」と記されています。合計22回という数は、イラン暦バフマン月22日、すなわち2月11日のイスラム革命勝利の日に由来します。

神はイラン・イスラム共和国の道を導きます。1980年代の「押し付けられた戦争」、2025年6月の「12日間戦争」、そして2026年2月28日に始まり今も続く侵略に際し、共和国は悪の傲慢な勢力と対峙しています。

そのいずれの時にも、イランの人々は各地で勇敢に旗を振ります。ハーメネイー師、ミーナーブの学校の子どもたち、ラーメルドのスポーツ施設の若者たちを殉教に至らせた攻撃以来、エンゲラーブ広場では人々が休まず国旗を掲げています。祖国と政治体制を守るため、国民は立ち上がっていると、悪の傲慢な勢力に伝えるためです。

テヘラン南部のベヘシュテ・ザフラー墓地には、殉教した英雄モスタファー・チャムラーンの墓があり、そこにイスラム共和国の国旗が描かれています。欠くことのできない革命家だったこの人物と、イラン国旗の双方に捧げる、優れた敬意の表現です。





ペルシャ庭園：王朝の楽しみから人々の憩いへ

文：フリアナ・ヒメネス・エスピノサ／社会コミュニケーター、エクアドル

ペルシャ庭園は、イラン文化の見事な表現であるだけではありません。美しさを超える哲学に基づいた、独自の建築の知恵も示しています。

アケメネス朝時代のペルシャ人にとって、砂漠の中に水、木々、花、木陰を備えた庭を造ることは、地上に楽園を近付ける営みでした。

最古のペルシャ庭園は、紀元前6世紀、キュロス2世の命によるパサルガダエの王宮庭園です。「四つの庭」を意味するチャハール・バーグを基本とし、中央の池で交わる水路によって空間を対称的な四区画に分けています。

パサルガダエの庭園造営に用いられた重要な技術の一つは、



カナートでした。山の帯水層から取り入れた水を、重力によって地表まで運ぶ地下水路です。堰や地上の水路と組み合わせて庭園へ給水します。

2000年以上にわたり、チャハール・バーグを基本とする庭園が造られました。イラン各地の異なる気候に適応したため、建築にも多様性が生まれ、それぞれに宮殿や亭が設けられています。

2011年、九つの庭園がユネスコ世界遺産に登録されました。パサルガダエ、エラム、チェヘル・ソトゥーン、フィン、アッバース・アーバード、シャーザーデ、ドウラト・アーバード、パフラヴァーンプール、アクバリーエの各庭園です。

イランのイスラム革命以前、ペルシャ庭園は王家の専用空間でした。キュロス2世は、地上の楽園を表すだけでなく、帝国の権力の象徴としてパサルガダエを造営しました。パフラヴィー朝時代も庭園は支配層の娯楽、行進、集会の場でした。本来社会全体のものであるべき空間から人々を排除する象徴だったのです。

1979年のイスラム革命によって「王族専用」の庭園は公共空間とされました。博物館、図書館、地域の交流拠点への転換は、単なる用途変更ではありません。美と休息が一部の特権だった時代を終わらせる象徴的な回復でした。人々が日々そこへ通い、自分たちの場所として親しみ、社会全体の文化に取り込める新しい時代が始まったのです。











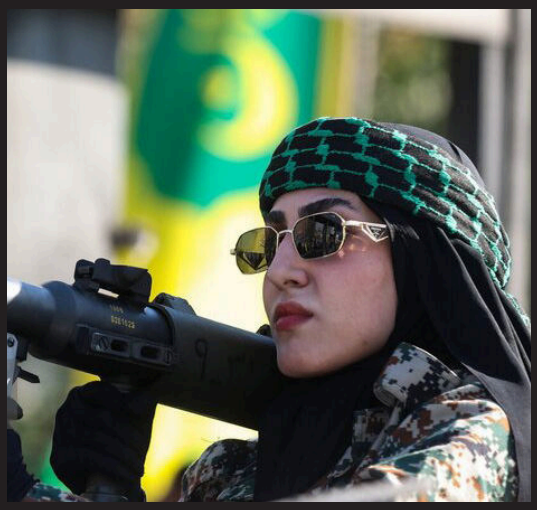


数十万人の「ジャーンファダーヤーネ・イラン」がテヘランで行進

「イランのために身を捧げる人々」を意味する「ジャーンファダーヤーネ・イラン」の大集団に属する31万3000人以上のイラン人が、首都テヘランで大規模な市民行進に参加しました。












9月18日の行進には、戦闘部隊と社会のさまざまな層が参加し、象徴的なエンゲラーブ広場へ向かいました。

行進の目的は、国家の主権を守るため、幅広い社会の人々を結集することでした。

マスウード・ペゼシュキヤーン大統領も参加しました。大統領は、市民の参加を、国の独立、領土の一体性、尊厳を守るための団結と共同の意志を示す経験と表現しました。



ホルムズ海峡を国際法の視点から考える

文：マフディー・ナザリー博士
国際法専門家、テヘランの諸大学で教鞭を執る

背景

2026年2月28日、米国とシオニスト体制によるイランへの違法な軍事攻撃と明白な武力侵略が再開されました。イスラム革命最高指導者セイエド・アリー・ハーメネイー師の殉教に加え、ミーナーブの小学生、軍や政府の高官、一般市民が犠牲となりました。イラン・イスラム共和国は、米国とイスラエルによる犯罪的侵略と位置付けたこの攻撃に対し、反撃しました。

領土の一体性と主権を守るため、イランはペルシャ湾、ホルムズ海峡、オマーン海域で、敵対国とみなす国々の軍事基地や軍事経済に関連する標的に対し、戦術的、戦略的な武力作戦を実施しました。

これらの作戦は、敵対国とみなされる国々を対象に、ペルシャ湾、ホルムズ海峡、オマーン海域で行われました。
ペルシャ湾のすべての沿岸国は、自国の領土、領空、領海を米国に提供し、その軍事施設の利用とイランへの攻撃を可能にすることで、米国の武力侵略に実効的かつ全面的に協力しました。従って、これらアラブ諸国は米国の侵略に十分な協力と参加を行ったことになります。

侵略の定義に関する国連総会決議3314の第3条（f）は、ある国が自国領域を他国に使わせ、その国が第三国に対する侵略行為を行う場合も、侵略行為に当たると定めています。

この定義と生じた事実に照らせば、湾岸諸国は、米軍の作戦に自国の領域や管轄下の空間の利用を認め、攻撃に協力、参加したことにより、イランに対する侵略行為を行ったことになると考えられます。

従って、ペルシャ湾と周辺地域は戦争と武力敵対行為の状況にあり、ホルムズ海峡は、イランとの紛争に参加する米軍と湾岸諸国にとって、戦略的、兵站的な通行・補給路となっています。

このためイランは、侵略国に対する自衛権の行使として、国際法と国連憲章第51条に従って行動しました。ホルムズ海峡が侵略側の安全な経路であり続けることを防ぎ、同海峡を通る対イラン武力作戦への直接、間接の補給・支援ルートを遮断する措置を講じたのです。

海洋法は国際公法の一分野です。過去半世紀、諸国は海の制度を規律する国際文書を採択してきました。1958年の領海及び接続水域に関する条約、1982年の国連海洋法条約などが含まれます。

イランは、これら二つの海洋条約のいずれへの加入も承認していません。そのため、航行と管轄海域に対する権利行使は、慣習国際海洋法の規則によります。この枠組みで領海、接続水域、排他的経済水域を画定、管理、統制しています。また、1982年と1993年の宣言などを通じ、海洋に関する法的立場と考慮事項を国連に伝えてきました。

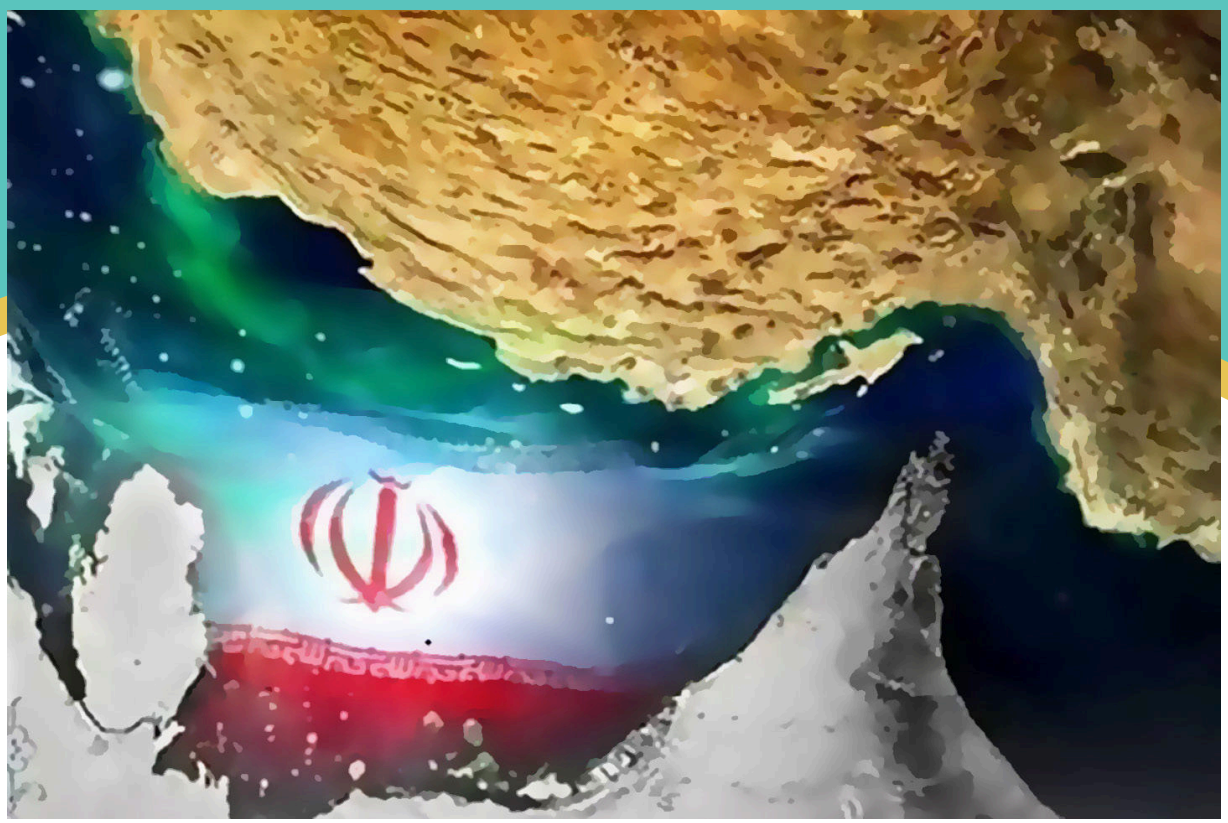
慣習国際海洋法と1958年、1982年の海洋法条約は、船舶の無害通航権を認めています。イランも、自国領海とホルムズ海峡で無害通航を確保する必要を宣言で強調してきました。

1982年の国連海洋法条約第19条は、無害通航を次のように定めています。

1. 通航は、沿岸国の平和、秩序又は安全を害しない限り無害です。条約及び他の国際法規則に従って行われなければなりません。

2. 外国船舶が領海で次のいずれかの活動を行う場合、その通航は沿岸国の平和、秩序又は安全を害するとみなされます。

（a）沿岸国の主権、領土保全、政治的独立に対する武力による威嚇又は武力行使、その他、国連憲章に盛り込まれた国際法原則に



反するあらゆる形の威嚇又は武力行使。

（b）種類を問わず、武器を用いる訓練又は演習。
（c）沿岸国の防衛又は安全を害する情報収集を目的とする行為。

（d）沿岸国の防衛又は安全に影響を及ぼすことを目的とする宣伝行為。

（e）航空機の発進、着陸又は船への積み込み。
（f）軍事装置の発進、着陸又は船への積み込み。
（g）沿岸国の関税、財政、出入国管理、衛生に関する法令に反する物品、通貨又は人の積み込み、積み下ろし。

（h）条約の規定に反する故意かつ重大な汚染行為。

（i）あらゆる漁業活動。
（j）調査活動又は
水路測量の実施。
（k）沿岸国の通信システム、施設又は他の設備の運用を妨げることを目的とする行為。

（l）通航に直接関係のないその他の活動。

1982年条約第25条によれば、沿岸国は「自国の安全の保護に不可欠」である場合、外国船舶の無害通航を一時停止できます。その際、外国船舶間に差別を設けてはなりません。ただし、国際海峡での通航停止は認められていません。

前述のとおり、領海で沿岸国の平和、秩序又は安全を害する行為や通航、又は主権、領土保全、政治的独立に対する武力、軍事行動、情報活動による行為や威嚇は、有害な通航となります。



そのような場合、沿岸国は外国船舶の通航を一時的に停止できます。

1982年条約第25条は国際海峡の通航停止を認めませんが、イランは同条約を批准していません。同時に宣言を通じ、ホルムズ海峡で無害通航を確保する必要と、有害な通航を禁じる法的立場を表明しています。そのため、戦争や武力紛争の際には、敵国船舶の通航を禁じ得ると主張しています。

湾岸アラブ諸国の大半は米国と共に対イラン攻撃に積極的に参加し、海峡内側のペルシャ湾に位置しています。そのため、これらの国の船舶がホルムズ海峡を通る際、イランを害する通航は、そのようなものとして判断、評価されます。

従って、軍事・安全保障上の必要、適用される国際法と海洋法の規則を踏まえ、イランは自国の安全を確保し自衛権を行使するため、敵対国とみなす国々の航行を、安全と持続的平和が回復するまで停止し、管理できます。対象には、海峡内側の対イラン侵略に自国領域を使わせたアラブ諸国と、外側から入る米国やシオニスト体制が含まれます。

湾岸アラブ諸国が参加するこの米国の侵略は、武力紛争と軍事作戦だけに限られません。経済戦争、経済インフラや商業航行への攻撃も含まれます。この観点から、当事国がペルシャ湾、

イランの声

ホルムズ海峡、オマーン海域で行う商業・経済活動はいずれも、イラン・イスラム共和国の正当な標的となり、敵対国の経済活動に関連する海峡通航は、有害な通航とみなされることになります。

ホルムズ海峡とは

この海峡はペルシャ湾をオマーン湾、そしてインド洋に結び、商船や軍艦による国際航行に常時利用されています。最狭部は約21海里、39キロメートル。出入それぞれの航路の幅はわずか約2海里で、分離帯によって隔てられています。



北岸はイラン、南岸はオマーンです。両国とも12海里の領海を主張しています。1993年のイラン海域法は、ホルムズ海峡内の領海への主権を明示し、幅を12海里と定めます。また、両国領海が重なる場合、別段の合意がなければ境界は中間線となります。最短の等距離による中間線は、両国の領海内の10.5海里の位置にあります。

条約、宣言、法の根拠

イランは1982年12月10日に国連海洋法条約へ署名しましたが、イスラム諮問議会による批准はしていません（国連、2026年）。条約文そのものだけでは、イランの条約上の義務違反を主張する根拠にはならないという点で、これは重要です。

条約法と慣習国際法は異なる法源であり、置き換え可能なものではありません。ある国が条約の当事国でない場合、広く受け入れられたり、一般に適用、援用されたりしているというだけで、その条約の義務に原則として拘束されることはありません。

1982年のイラン宣言と一括交渉による合意という論拠

イランの法的立場の主要な根拠の一つが、条約署名後の宣言です。そこでは、一部の規定は相互の譲歩と妥協を伴う交渉の結果であり、

単に主権を唱えるよりも強固です。イランに通過通航制度を適用する際の法的根拠を、直接問い直しているためです。

宣言は、イランの法的立場の構造を理解する助けにもなります。通航と沿岸国の安全保障上の権限を結び付け、適用法の解釈に従えば、



必ずしも既存の慣習国際法を反映しないと述べています。また、条約が定める「条約上の権利」を援用できるのは締約国のみであるとし、国際航行に使う海峡の通過通航制度に明確に言及しました（イラン、1982年）。この主張は、援用される規則の法源そのものを問う点で重要です。イランは単に通航制限の違法性を否定するのではなく、条約に同意していない国へ、条約で設けた特定の通過通航制度を自動的に適用できないと主張しています。この観点から、この論拠は、

領海で無害通航権を行使する軍艦に事前許可を求め得ると主張しました（イラン、1982年）。これは、無制限と捉えられる通過通航制度への反対が、新たな、又は一時的な立場ではないことを示します。法源、相互主義、沿岸国の安全保護という基本的問題を巡り、数十年維持された立場なのです。

1993年イラン海域法

この解釈を支えるのが1993年のイラン海域法です。ペルシャ湾、ホルムズ海峡、オマーン海域を規律し、より広い「通過通航」ではなく、

イランの声

「無害通航」という概念を用います（イラン、1993年）。これは隣接海域の外国船の航行について、安全保障を重視する制限的な考え方を示す、重要な立法上の選択です。

同法は当局に相当の管理権限も与えます。安全保障や国家の至上の利益に関わる理由で、領海の特定海域の通航を停止できます。また、軍艦、潜水艦、核燃料運搬船、危険物運搬船、外国漁船などに事前許可を要求します（イラン、1993年）。沿岸国の実効的な管理を離れた自動的な権利として通航を扱うことに抵抗する法的姿勢と、整合する規定です。

国内法の規定が、必ずしも国際法の内容を決めるわけではありません。しかし1993年法は、イランの立場の継続性を示す点で、国際法上も意義を持ちます。現在の立場が即興的、便宜的なものではなく、無害通航、事前許可、国家安全保障に基づく長年の法的立場に根差していることを示すのです。

一貫した反対国の法理と、その要件

慣習法の問題に関して、イランは「一貫した反対国」の法理を援用できます。形成途上の慣習国際法規則に、形成過程から明確かつ継続的に反対する国は、その適用を免れ得るという法理です。反対は公に、十分に明確に、そして長期に

維持されなければなりません。遅れた反対や曖昧な反対では足りず、適用可能性の立証責任は援用する国にあります（国際法委員会、2016年）。
イランにはこの主張を支える要素があります。1982年宣言は非締約国への通過通航権の自動的拡張を明確に拒否し、1993年法も無害通航という狭く制限的な枠組みで通航を規律しています。現代の海峡制度が発展する間、イランは沈黙していたのではなく、法的に反対を表明し、国内法でも維持したのです（イラン、1982年、1993年）。

結論

前述のとおり、領海で沿岸国の平和、秩序、安全を乱す行為や通航、又は主権、領土保全、政治的独立に対する武力、軍事行動、情報収集による行為や威嚇は、有害な通航となります。その場合、沿岸国は外国船の通航を一時停止できます。1982年条約第25条は国際航行に用いる海峡での停止を認めませんが、イランは条約を批准せず、宣言でホルムズ海峡の無害通航の必要と有害な通航に反対する立場を示しました。従って、戦争や武力紛争時、敵国船の通航を禁じ得るとするのです。

湾岸アラブ諸国の大半は米国と共に対イラン攻撃へ積極的に参加しており、ホルムズ海峡内側の

ペルシャ湾に位置するため、その船舶の海峡通航はイランに有害と評価され得ます。従って、軍事・安全保障上の必要と適用される国際法、海洋法を踏まえ、イランは国連憲章第51条に認められる自衛権の行使として、安全と持続的平和が回復するまで、敵対国の航行を停止、管理できます。

法的に正当で必要な防衛的軍事作戦を行い得ます。
国際航行に使われる海峡にも、特別な法制度の対象となるものがあります。トルコのボスポラス、ダーダネルス両海峡、大ベルト、小ベルトを含むデンマーク海峡群、チリとアルゼンチンの間のマゼラン海峡などです。従って既存の実行に照らせば、イランとオマーンもホルムズ海峡固有の法制度を設け得るでしょう。



海峡内側では侵略に自国領土を使わせた湾岸アラブ諸国、外側から入る国では米国やイスラエル体制が、その対象になります。

法的観点から、オマーンは対イラン侵略を行う軍に自国領海を提供できません。そのような場合、イランは、

参考資料
1. 国際連合憲章。
2. 1982年国連海洋法条約。
3. D・ズィヤーイー・ビグデリー『国際公法』。
4. Edmarverson A. Santos, Iran's Strait of Hormuz Closure Under International Law.
5. https://www.diplomacyandlaw.com/post/iran-s-strait-of-hormuz-closure-under-international-law



イスラム・イランと抵抗の源流

文：ゼイナブ・マルヤム／メディア活動家、ベネズエラ

「ただし、信仰し、善行をなし、神を多く念じ、抑圧された後に抗する者は別である。不正をなす者たちは、やがて自分がどこへ帰るかを知るであろう」。（クルアーン26章227節）

神の預言者たちは、唯一神を広め、神の教えを説き、正義を実現し、抑圧に抗する使命を貫いたため、苛烈な迫害と拷問を受けました。しかし、その闘いを戦場でも実現することが託されたのは、最後の預言者ムハンマド（彼に平安あれ）だけでした。

こうして信仰を強める時代は、神のための戦いの段階へとつながりました。聖クルアーンの導きの下、祈り、知恵、行動を通したイスラム的抵抗の道が定まったのです。



アカバの誓約が目指したもの
神の使徒の移住、ヒジュラを前に、巡礼の際、使徒はアラブのハズラジュ族の六人と会いました。話を聞くよう求め、クルアーンの章句を朗誦すると、その知恵に深く感銘した彼らは、その場でイスラムを受け入れ、広めることを誓いました。

ある夜、使徒は叔父アッバースと共に、アリーの後にイスラムを受け入れた最初の73人の前に現れました。アッバースは言いました。「ハズラジュの人々よ。誓約を守り、敵から彼を守り抜く決意があるなら、ムハンマドをあなた方のもとへ送りましょう。しかし困難な時に守れないと思うなら、家族と共にここに残してください。家族の中で彼は大切にされ、尊厳を保っています」。こうしてアカバの信仰の誓約が生まれました。

メッカの有力な偶像崇拝者はすぐに反応しました。腐敗、不道徳、拷問、殺人などの悪行を行っていた彼らは、権力を失うことを恐れ、血なまぐさい迫害を始め、ついには預言者の殺害を企てるまでになりました。戦争をあおったのはムハンマドの信徒ではなく、憎しみに目をくらませた不義の者たちだったのです。

そこで最初の犠牲を引き受けたのは、使徒とイスラムを守るため自らの命を差し出した忠実なアリーでした。その英雄的行為は、真実と正義の旗を掲げることを妨げる絶え間ない侵略に打ち勝つため、ムハンマドが率いた抵抗の闘いの始まりとなりました。約60年後、その愛する孫フサインも、この価値のため、不均衡で押し付けられた戦争を闘い、非道にも殉教に至りました。

団結するイスラム・イラン
「私たちは皆、現実を理解しなければならない。私たちはムスリムであり、クルアーンに従い、唯一神への信仰を実践する者である」。
（イマーム・ルーホッラー・ホメイニー）
なぜイランの人々の団結は、今日まで強く保たれているのでしょうか。
それは、次のような人々だからです。
・預言者のイスラム的抵抗に守られ、それを体現し、唯一神を信じて擁護する民であり、

イランの声

主権も畏れも神だけに属すると確信しています。この意味で、人類が神へ向かう歩みを妨げようとするシオニスト帝国主義の影響に対する闘いは、聖なるものです。

・聖クルアーンを、思想と行動の基礎に据えています。

・イマーム・フサインの旗を掲げ、精神的にカルバラーに属し、イマーム・マフディーと預言者イエスの指導の下で、抑圧された人々が世界を治めるという揺るぎない信仰を持っています。

神は、日々正義のために闘う人々と、



法、政治、社会、哲学、宗教、悠久の文化、教育、科学、経済の分野で平等と社会正義を実現するため、神の言葉を学び続けます。

・広い知の領域で信仰と科学が結び付くことを理解しています。切り離して追求すれば狂信に陥るからです。その結び付きの例として、イスラム法は核兵器の保有を禁じます。イランの60%濃縮核物質は軍事目的ではなく、とりわけ医療をはじめとする国内の能力向上のために生産されています。

世界の不正に対して信仰を掲げる人々を愛し、助けます。この祝福がイスラム・イランを支えています。アカバの誓約は現在にもつながっています。イランはイスラムの団結を通して行動を貫き、今日では米国・シオニストのテロリズムとして現れる同じ悪魔的な敵に抗しているのです。

「イスラム・イランの心は、誇りと尊厳、イスラムとその聖なるものへの敬意に満ちている。抑圧者の罠に陥らない自覚ある民であり、その勇気の炎は神のための闘いで燃え続ける」。（殉教した指導者セイエド・アリー・ハーメネイー）



戦争の犠牲者：子どもから各界の人々まで

・ノートは瓦礫の下に残されました。米国によるミーナーブの学校への攻撃で、子ども168人が亡くなりました。
・バレーボールの練習中、頭上でミサイルが爆発。ラーメルドでヘルマーとエルハームは、他の19人と共に亡くなりました。
・研究は未完のままとなりました。米国とイスラエルの攻撃で、数十人の科学者が殺害されました。
・一国の中枢を断とうとしました。イスラム革命最高指導者ハーメネイー師は、2026年2月28日の米国・イスラエルの共同攻撃で殉教しました。
・一世代の声が絶たれました。各界で活躍する優れた人々が、攻撃で殺害されました。

・指揮系統も標的となり、数十人の軍高官が爆撃で命を落としました。

炎に包まれる文化、科学、宗教の遺産

・知を育むべき場所に爆弾が落ち、30を超える大学が攻撃されました。
・出席を呼ぶ声に344人が応えなくなりました。約1288校への攻撃で、児童、生徒、教員が亡くなりました。
・命を支える薬の生産が止まりました。トウフィーグ・ダールーが破壊され、パスツール研究所は稼働不能となりました。
・信仰も砲火にさらされ、国内の複数の重要なモスクが攻撃を受けました。

・爆弾は信仰を問いませんでした。テヘランの歴史的な教会二つも損傷しました。
・40日間で何世紀もの歴史を消そうとしました。約140の歴史的建造物や史跡が被害を受けました。
・ユネスコの認定も守りにはならず、五つの世界遺産が損傷しました。



環境と人々の生活空間の破壊

・テヘランの空は黒く染まりました。四つの貯蔵施設への爆撃で、有毒な煙が都市を覆いました。
・海はそこにあるのに、水は届かなくなりました。海水淡水化施設への攻撃が、数十の村に影響しました。
・米国とイスラエル体制の攻撃で漁船が燃え、沿岸の多くの家族の生計も失われました。

人々の暮らしに欠かせない基盤施設の破壊

・都市を結ぶはずの橋を爆弾が断ちました。B1橋への攻撃で13人が死亡し、他の橋も損傷しました。

・トンネルや山々も攻撃されましたが、数時間で通行は復旧しました。
・国の機能を止めるため製油所や貯蔵施設が攻撃されても、供給は続きました。
・製鉄所への爆撃は、国内生産の4分の1に影響しました。
・爆弾は電線にも及び、25キロの送配電網と30の電力施設が損傷しました。



メディアが伝える真実

・爆弾の声にカメラが応えました。多言語に翻訳された映像によって、戦争の現実は国境を越えました。
・イラン制作のレゴ風アニメーションはメディアの闘いで注目を集め、再生回数は1億4500万回を超えました。

市民の覚醒と行動

・大通りを人の海が埋め尽くし、数百万人のイラン人がハーメネイー師と他の殉教者を見送りました。
・追悼はイラクにも広がり、数百万人のイラク人が指導者の影響がイラン国境を越えていたことを示しました。
・一夜限りの反応ではありません。5か月後も広場に人々が集まり、抵抗は続いています。

・ホルムズ海峡に対する主権、原子力を平和利用する権利、戦争被害者への賠償。この三つが市民集会の要求となっています。



フィデル・トスカーノ・セゴビア（エクアドル）


PERSEPOLIS

□□□□□□